

令和6年度 第1回 静岡県立天竜高等学校春野校舎 学校運営協議会議事録

1 日時 令和6年6月3日（月） 午後1時30分から3時30分

2 場所 静岡県立天竜高等学校春野校舎 応接室

3 委員 松本 常志（学校後援会会長）
北野 昌宏（春野中学校校長）
津村 公博（浜松学院大学教授）※欠席
尾畑 佳志（浜松市春野支所長）
鈴木 利行（前PTA会長）※欠席
中田 宗男（同窓会会長）

4 内容

- (1) 校長あいさつ・自己紹介
- (2) 会長・副会長の選出
- (3) 学校評価について
 - ア 令和5年度「学校自己評価」「学校関係者評価」結果報告
 - イ 令和5年度「生徒・保護者アンケート」結果報告
 - ウ 令和6年度「学校経営計画」
 - エ オンリーワンハイスクール（3年間の活動報告）
- (4) 学校の様子について（6時限目授業参観）
- (5) 学校運営に関する意見交換

5 議事録（要点）

- (1) 校長あいさつ・自己紹介
校長より学校運営協議会の趣旨を説明。各委員より自己紹介を行った。
- (2) 会長・副会長の選出
会長に松本後援会長、副会長に中田同窓会長を推薦。全員異議なく承認された。
- (3) 学校評価について
 - ア 令和5年度「学校自己評価」「学校関係者評価」結果報告（副校長）
 - イ 令和5年度「生徒・保護者アンケート」結果報告（副校長）
 - ウ 令和6年度「学校経営計画」（校長）
学校経営計画および目指す学校像について説明し、承認を得た。
 - エ オンリーワンハイスクール（3年間の活動報告）（副校長）
春野校舎の3年間の取り組み（地域活動、遠隔授業の研究等）について報告した。
- (4) 学校の様子について（6時限目授業参観）
6限の授業（1年から3年）を参観した。

(5) 学校運営に関する意見交換

- 3年間のオンリーワンハイスクール事業は終了したが、これからもこの取組の中で見いだされた様々な地域の良さを大事にしながら指導に当たってほしい。
- オンリーワンハイスクール事業で使用されていた遠隔授業システムや生徒一人ひとりが授業活用していたタブレットPCをみて、学校も時代に対応して変化していることに感心した。
- 地元春野の生徒は、二俣校舎に通う生徒はいるが、意外と春野校舎に通う生徒は少ない。高校を選ぶ理由に部活動もあると思うので、二俣校舎と合同の活動を可能な限り充実させてほしい。
- 放課後補習の受講希望者がとても多いのは、生徒たちの「勉強したい」という気持ちの表れだと思う。生徒を置き去りにしない「中学校の学び直し」と、進路希望を実現する「進学対応」の2つの柱で、ほぼマンツーマンで取り組み、成果もあがっているのは、春野校舎の大きなウリである。
- 授業の様子をみせていただき、どの生徒も真剣に勉強している姿に感心した。少人数で、先生の日も行き届いていて、個々の生徒に合わせたきめ細やかな指導がされていることが窺えた。
- 山間地域の小さな学校でありながら、こんなに進路実績が出ている。他地域の生徒が春野校舎を選ぶには何かしらの理由が必要だが、このことはその理由になりえるのではないか。中学校からみると、不登校生徒を受け入れてくれる学校というイメージが大きいですが、それだけではなく、どんな生徒にも対応する「丁寧な指導」と、どんな生徒も活躍できる「充実感に満ちた学校生活」という大きなメリットを中学校に伝えてほしい。
- 外部指導者を入れた、通級による指導やスクールカウンセラー、ソーシャルスキルトレーニングといった、様々な生徒にきめ細やかな指導がされているのが、生徒が生き生きと学校生活を送れることができている理由として大きいと感じる。
- 森方面からのバス通学経路が自然災害の影響で断たれていて、生徒たちが本当に気の毒だが、それでも元気に登校している生徒たちには、それだけ価値のある学校なのだと思う。来年には、森方面からのバス通学経路も開通すると思うので、引き続き、他地域から多くの入学生に来てほしい。
- こんなに落ち着いた環境での個々の生徒に目が行き届いた少人数指導の授業の良さは、パンフレットの写真だけでは伝わらない。多くの中学生にぜひとも直接みてほしい。一日体験入学のPRを頑張ってください。

6 その他

第2回は10月から11月頃に開催する予定である。